

サハシヨウベエ 澤庄兵衛 又少兵衛に作る。食祿二百石。父は服部常在院といひ、庄兵衛の澤氏を冒した理由は明らかでない。元和元年大坂役に出陣し、黒門邊にて深手を負ひ、五月十七日死亡した。庄兵衛歿後その子服部五右衛門相續し、後裔相襲いで藩に仕へる。

サハダシヨウアン 澤田富庵 宗堅の子、通稱道玄。寛文六年儒を以て前田綱紀から二十人扶持を受け、組外に班した。時に年二十。後に父の名を襲いで宗堅と改め、貞享二年三月祿を辭して京都に退去した。燕臺風雅は父子の宗堅を混じ、高庵を萬庵に作つて父訥齋の一號としてゐる。又由緒帳に高庵元と記するが、元は道玄の誤寫らしい。

サハダシンバチ 澤田新八 前田利常の時御歩で、或時閉門を命ぜられてゐた。然るに利常が參勤の爲小松を發し、金澤淺野屋に宿泊して大樋金廣橋を通過した際、新八は田の際に躊躇して居た。新八にその故を問ふと、最早御免にならうかと待つて居たが、赦免なきに依り、一層切殺された方が御憤りも止むであらうと思つてかくの通りであると申上げた。利常は、猿の皮の毛巾着を下げて居たが今も持つてゐるかと思つて尋ね、その所持するを見て、これを下げて隨行せよと命じた。事は山本基庸の微妙公夜話に載せられる。

サハダスケアヤ 澤田亮采 通稱吉左衛門。九内・義門。諱は亮采、字は伯惠、號は謙齋。學を陸原之淳・稻垣詔に受け、亦天文を談ずることを好んだ。文化四年九月父正詔歿して、遺秩千石を襲ぎ、馬廻組に班し、能州御郡奉行・表御小將番頭兼近習用・物頭並・御先筒頭・

盜賊改方奉行・金澤町奉行に歴任した。天保八年正月十八日歿、五十九歳。

サハダソウケン 澤田宗堅 諱は貞三、號は訥齋。父は泉州堺の人春齋で、京都に移住してゐた。宗堅石川丈山に學び、寛文五年十一月六日儒を以て前田綱紀の祿する所となり、三百石を受け、組外に班したが、貞享二年三月仕を辭して去つた。

サバタタキ 鯖扣 親元日記文明十三年七月廿九日畠山左衛門佐から公方へ献上物の中に、鯖扣廿桶とある。鯖の切身を鹽辛にしたものであらう。↓シホカラ 鹽辛。

サハダトモマサ 澤田友正 通稱市丞・與三右衛門。元祿十二年前田吉徳の小々將となり、十五年父市兵衛の遺知二百石を襲ぎ、御側小將・御大小將・同横目に歴任し、九年御先筒頭に轉じて二百石を増し、十年歿した。

サハダナガカゲ 澤田長影 通稱少五郎・源太夫。實は太郎左衛門長照の次子で、その兄次郎右衛門長治に養はれたもの。元祿三年祿五百石を襲ぎ、御大小將・御先筒頭より次第に昇進して大組頭に至り、元文五年七月十二日七十三歳を以て歿した。

サハダナガマサ 澤田長政 通稱次左衛門。慶長八年前田利長に仕へ、祿二百石を受けたが、先主稻葉藏人から構はれてゐたので、本姓三賀野氏を改めて澤田と稱し、越中水見庄に置かれた。十九年五百石を加へ、使番に任じて大坂再役に町口で槍功があり、元和二年千石を加へ、御持筒足輕頭に任じ、寛永八年二千三百石(内與力知千二百石)を加へ、合計四千石を受けた。子孫相襲いで藩に仕へる。

サハダナホハル 澤田直温 小松の人、天保五年正月を以て生まれ、幼名市太郎、後に覺之助と改めた。幼より句讀を郷校に受け、弘化四年金澤に往き、藩儒木下晴崖に従ひて學び、嘉永五年晴崖歿するに及びて京都に行き、經史を巖垣月洲に、和歌を草盛義直に學び、居ること三載、業大に進みて郷に歸つたが、安政三年復京師に遊び、桐山元中に就きて漢蘭醫方を受けた。翌年父歿して家に還り刀圭の暇子弟を教授し、文久二年藩命を奉じて江戸に抵り、村田藏六の門に入りて蘭書を讀み、傍ら航海術を海軍操練所に、測量術を近藤某に學んだ。翌年徳川家茂京師に朝し、軍艦を加賀藩に借つた時、直温擇ばれて發機丸の乗組員となつた。後江戸に抵り伴鐵太郎・大島圭介に従ひ、英學及び測量術を修め、慶應の初藩に歸り、軍艦操練所教授となり、明治元年には藩命を受けて越後に赴いたが、この時祿五十石を賜ひ、寄合馬廻組に班してゐた。既にして政府民政政局を陸奥の塔寺に置き、尋いで之を坂本に移したが、直温は參謀の命を受けて之を管し、治績頗る多かつた。

サハダマサウヂ 澤田政氏 通稱友之助・右主膳・五郎左衛門。慶安三年父治左衛門政行遺知の中二百石を受け、萬治二年小々將として四百石を加へ、寛文七年又四百石を増し、八年御小將御使役、延寶二年御馬廻となり、正徳四年九月九日歿した。

サハダヤイチロウ 澤田彌一郎 寛永二十年前田光高の小々將となり、正保元年新知二百石を受け、後御馬廻に班した。子孫相襲いで藩に仕へる。

サハダリヨウ 澤田稜 通稱主善。號は蘭坡。亮采の嫡男で、天保八年父の秩千石を襲ぎ、馬廻組に班したが、同年八月廿六歳を以て歿した。稜、學を林蔭坡に受け、好んで詩を作つた。

サハダヒサヒロ 澤田久宥 通稱長四郎。藤左衛門。元文四年兄七太夫長郷の遺知百五十石を襲ぎ、寶曆十二年四月朔越中岩瀬に於いて代官杉若文左衛門と果し合ひ、翌二日歿した。享年三十八。

サハダマサウヂ 澤田政氏 通稱友之助・右主膳・五郎左衛門。慶安三年父治左衛門政行遺知の中二百石を受け、萬治二年小々將として四百石を加へ、寛文七年又四百石を増し、八年御小將御使役、延寶二年御馬廻となり、正徳四年九月九日歿した。

サハダヤイチロウ 澤田彌一郎 寛永二十年前田光高の小々將となり、正保元年新知二百石を受け、後御馬廻に班した。子孫相襲いで藩に仕へる。

サハノゴボウ 澤野牛蒡 寶曆の産物調書に「澤野牛蒡、鹿島郡澤野村・殿村」とある。殿は澤野の隣邑である。

サハノジュウベエ 澤野十兵衛 萬治元年七月廿六日前田綱紀夫人の入興の時、會津藩から従ひ來つたもの。保科氏の祿三百石に加